

「病院」の教科書 知っておきたい組織と機能

今中雄一 編

＜書評者＞ 堺 常雄（聖隷浜松病院院長/日本病院会会長）

わが国は国民皆保険のもとで国民の健康状態を良好に保ち、世界の中でも高い評価を得てきました。しかしながら医療を取り巻く環境の変化、特に少子・超高齢社会の到来、永年の医療費抑制政策などの影響で、「医療崩壊」といわれる状況になっています。そのような中で持続性のある社会保障制度を維持するためには、財源の確保と病院医療の再生が喫緊の課題です。

病院は他の業界と異なり専門職集団を多く抱え、縦の連携が強い組織といえます。しかも十分に情報が共有されておらず、情報の非対称がいわれ、医療全体がブラックボックスとなっています。また病院を取り巻く環境の変化として、疾病構造の変化、診断・治療の高度化・専門分化があります。このような状況に対応し改善する方法として組織横断的な活動、チーム医療の推進、情報の“見える化”などが考えられ実践されていますが、そのためには病院の組織と機能を広く知ってもらい、多くの方々に病院運営に興味を持ち理解をしていただくことが重要です。残念ながらこのような視点で病院を紹介する本は今までにほとんど存在していなかったといえま

す。その意味でこのたび、今中雄一教授（京都大学大学院医学研究科医療経済学分野）のグループから本書が刊行されたのはまさにタイムリーなことであり、病院の経営に携わるものとして歓迎するところです。

本書は「序論」「病院経営の基本と制度」「病院の組織と機能」「介護システムとの連携」の4部構成になっており、読者目線で説明がなされ読みやすく、多くの図表や充実した参考文献・参考資料によって大変理解しやすいものとなっています。今中教授が担当された「序論」は本書のエッセンスといえるもので、病院にとって不可欠な診療の質と経営の質を担保し向上させるための事柄が述べられています。さらに、挿入されている「ちょっと話したくなるコラム」は読者の理解を深めるものとなっています。これに続く「病院経営の基本と制度」および「病院の組織と機能」でも、実際の病院経営・管理が必要であるにもかかわらず十分に理解されていない事柄についてコンパクトに述べられており、まさに「病院の新任者」「元企業人」「現企業人」「先生と学生」にわかりやすい構成になっています。もちろん、医療界のベ

テランにも、病院の組織と機能についての考えを整理する書として利用価値があるものと思われる。最後の「介護システムとの連携」は、一般病院で働く者にとってわかりにくい点について述べられており、医療提供体制を予防医療、急性期医療、慢性期医療、介護・在宅ケアというトータルでシームレスなものにとらえる上で大変参考になるものと確信します。

病院で働く人には病院全体や他職種のことを広く理解してチーム医療を推し進めていただきたいし、一般の方には病院を身近なものとしてとらえ、病院に積極的にかかわっていただきたいものと願っています。もちろん、常にかかわっていただければそれに越したことはないですが、例えばボランティアのような形でかかわっていただくことも大歓迎です。病院の医療を支え向上させるのは皆さん1人ひとりであると考えます。そのためにも、この本で病院のことを理解していただくのは有用なことと思います。

病院の図書室に本書を配備し、また新人研修などで利用されることをお勧めします。

●B5 頁248 2010年
定価3,990円
(本体3,800円+税5%)
[ISBN978-4-260-00595-1]
医学書院刊